

# 北タイにおける住民による森林の自主管理支援事業

“ Project for supporting villager self-management of community forest in Northern Thailand ”

## 最終報告書

特定非営利活動法人 Link・森と水と人をつなぐ会

コード番号：10-A-231

### ◆活動の目的

北タイの農村部に住む人々の、環境保全や自主的な森林資源の管理・活用を図ろうとする活動を支援し、これを通して貧困問題の解消と持続的な暮らしを実現すること。

### ◆活動の内容と方法

森林保全活動を行う村人たちの最大の課題は、組織力の脆弱さにあり、本活動の具体的な目的は、これを補強するものである。活動を行う村人たちと共に次に記すような情報を収集し、“村の百科事典”という冊子にまとめてより多くの住民との共通認識の形成、問題の共有を図る。これを通して組織の強化、活動の拡大を実現しようとするものである。

以下に活動(“村の百科事典”)の内容と方法を合わせて記載する。

- ① 行政村およびコミュニティ林の境界線を示す地図を作成する。そもそもタイの村の大半には村単位の地図がなく、行政区の地図は活動をする際の最も基本的な情報のひとつとなる。コミュニティ林の地図は住民が管理・利用しようとする森の範囲を示すもので、これがあって初めて行政との交渉が可能になり、ひいては住民自身による管理・利用が実現する。

これらに関する情報は一切存在しないのが普通で、すべて Link のスタッフが村のリーダーたちと境界を歩いて GPS(全地球測位システム)で測位する。これを事務所に持ち帰り、陸軍地図局発行の 5 万分の 1 地形図から地形や主要幹線道の情報などを入れ、住民が使いやすいように加工しながら仕上げる。

- ② 歴史情報を集める。森林破壊も貧困化も、近代化の大きな流れの中で、様々な要素が絡み合いながら起こっている。これらを、(1)開発による変化、特にインフラの整備や消費財の導入の経緯、(2)住民の主たる生業であり、しばしば負債を生じさせたり環境破壊の原因となり得る農業の変化(商業化)を把握するための、作物名や農薬の導入時期などの情報、(3)住民による森林保全活動をアピールする際に最も重要な“証拠”となる保全活動の記録、(4)村内では見ることもなくなってしまった野生動物や水棲動物を最後に見たおおよその年の記録、の 4 点に分けて一覧表にし、自分たちの“来し方”を統合的に

理解することを通して“行く末”をより深く考えられるようにする。

情報は聞き取りによって集める。

- ③ 村内でいまでも見られる動植物の情報を集め、一覧にまとめる。これには住民によるそれぞれの利用状況などを記載する欄も設け、住民自身がくらしと森との関係を再認識すると同時に、対外的に村のくらしについて理解を深めてもらい、合わせてその村（の森）の価値をアピールできるようにする。

情報は聞き取りによって集める。

情報収集の具体的な方法として、GPS の測位も情報収集のワークショップも、なるべく多くの村人に参加を呼び掛けて行う。単に情報の収集ということを考えた場合、この方法は活動の非効率や、得られる情報の不正確さを招く恐れがある。にもかかわらずこの方法を採用するのは、「自分も参加した」という意識を持つことによって、より多くの住民が村やこの活動に対して関心を高め、結束の強化につながることを念頭においているためである。

また、これらのデータは地域の学校における総合学習の時間（いわゆる地元学や環境教育）の教材ともなるように、ひいては次の世代を担う子どもたちの育成に資するように意図されている。製本前には村の子どもたちから村の絵を募集して、表紙や挿絵として途中のページに入れているが、これも子どもたちにも関心を持ってもらい、気軽に手に取ってもらえるようにとの願いを込めた工夫である。

すべての情報が整えられ、校正・製本を終えた冊子は“完成式”で村人に還元される。当日は村長、助役、開発委員やすべての村人はもちろん、学校長や所轄の森林局や国立公園局、自治市の担当者なども招き、冊子の主旨、利用方法などの説明を行う。

活動に際しては、村人は手弁当で参加するものとし、村人が受け取る分の冊子の印刷代は村人側が負担する。冊子の紛失を防ぐため、最低でも 20 冊を印刷し、村の役員だけでなく学校や寺院・教会、自治市などの公共機関にも配布することが活動を開始するに際しての条件である。

データは CD でも村に還元され、今後、村人がデータを増やしたり改訂できることも配慮されている。これらは Link のホームページでも公開するほか、将来的にはチェンマイ大学の電子図書としての公開も検討されている。情報の公開も活動開始当初の条件に含まれているので、個人情報などについては慎重に配慮し、校正段階では必ず村長などが目を通すようにしている。

なお、これらの活動を支えるため、スタッフは常に最新の情報に目を配り、勉強会を開き、各地で開催されるワークショップや講習会に参加しているほか、関連団体との交流や情報交換も行っている。

助成期間に参加・実施した主たる催しは以下の通り。

- ① チェンマイ県メーワン郡メーウィン村でタンボン行政区評議会が森林局、北タイ開発財団を招いて開催した“地域活動の立案会議”〔11月9日〕
- ② 在チェンマイ日本国総領事館“新年賀詞交歓会”〔1月14日〕
- ③ スタッフ研修：コミュニティ林法について〔2月7日〕
- ④ ダイエ セイリ氏の活動20周年記念祝賀会（於：ウィアンパバオ）〔2月8日〕
- ⑤ “コミュニティ林の要点の前進”に関する関係者の交流会（チェンマイ県）〔2月8日〕
- ⑥ “Community Forest and Climate Change”（チェンマイ県）〔2月22～24日〕
- ⑦ スタッフ研修：組織論に関して〔3月28日〕
- ⑧ “文化習慣と法の間で女性の幸せを縛るもの”セミナー〔5月25日〕
- ⑨ ガセサート大学林学科主催“第1級水汲林の管理政策に関する公聴会”〔8月29日〕
- ⑩ “Forum For the Future”（資源管理システムに関する協力を変革を求めて）〔9月23日〕
- ⑪ 世界森林アクションサミット（参加者81名）〔10月8日～10日〕
- ⑫ NPO 法人会計基準ミニ講座〔10月14日〕

この他に、スタッフ研修の一環として、“チェンマイ自由学校”と称する公開自主勉強会を11回実施し、現況の把握や専門知識の習得に努めた。詳細は同封の“2010年度 事業報告書”を参照されたい。さらに、予定していたタイでの財団としての登録も、6月を持って承認された。

## ◆活動の実施経過

村での活動は以下の順で行った。

- ① 新規に活動を始める村でリーダーたちとの打ち合わせ、治安状況の調査、管轄する担当行政部局との話し合いを経て、支援するかを決定する。
- ② 村でGPSを使った地図情報および歴史や生物などの情報を収集して編集し、製本する。
- ③ “完成式”で冊子を村人にわたす際は、村人のほか、行政担当者や校長をはじめとする学校関係者、自治市職員なども招待し、“村の百科事典”の内容や使い方などを説明する。以下は現場での活動の詳細な日程である。

### 【11月】

- 3日 チェンマイ県サンカンペン郡オンタイ区ペ村で情報収集のワークショップを実施
- 11日 チェンライ県ムアン郡メコン区ノンキョー村で活動開始。宅地のGPS測位  
SPK事務所、国立公園局、森林局を情報収集のため訪問
- 12～15日 ノンキョー村の村境、宅地をGPSで測位
- 15日 チェンライ県の森林局を情報収集のため訪問後、チェンマイに戻った
- 16日 一時帰国時に得た情報をもとに、今後の活動についてのスタッフ戦略会議を実施

**【12月】**

- 17日 CMUのブルック教授を訪問。活動の報告とペ村の“村の百科事典”の校正を依頼
- 31日 ブルック教授が事務所に来訪。ペ村の“村の百科事典”の校正結果を検討

**〔2011年〕**

**【1月】**

- 20日 チェンライの森林局事務所を訪問。ノンキョー村での活動について打ち合わせ
- 21, 22日 ノンキョー村で耕地と森林の境界をGPSで測位
- 28日 ペ村で“完成式”を開催
- 31日 森林局(ホ休クライ)にカニット氏、サウイン氏を訪問。新規活動村について相談

**【2月】**

- 1日 チェンマイ県サンカンペン郡オンタイ区パトゥン村を訪問。活動開始で合意
- 2日 パトゥン村で活動開始。宅地のGPSの測位(～3日)  
ペ村の“村の百科事典”の目次を翻訳  
“村の百科事典”の情報収集手順の作成
- 4日 “村の百科事典”の調査表の作成とタイ語訳
- 5, 6日 パトゥン村で村境のGPSの測位
- 9日 チェンマイ県ドーイサケット郡パーミヤン区パンフェーン村の村長と話し合い。活動開始で合意  
パトゥン村の村境について行政区評議会のナット技師と話し合い
- 11日 パトゥン村で村境について話し合い
- 12, 13日 パトゥン村で村境をGPSで測位
- 15日 サンカンペン郡郡庁でパトゥン村の行政村境について問い合わせ
- 25日 パンフェーン村で活動開始。GPSの測位(宅地)
- 26～28日 パンフェーン村でGPSの測位(宅地)

**【3月】**

- 1, 2, 4日 活動が既に終わった村に対して“村の百科事典”の利用状況を電話でインタビュー
- 3日 パーミヤン自治市の会議でLinkと活動について説明
- 5～8日 パトゥン村でGPSによる測位
- 20日 パトゥン村でGPSの測位(宅地・村境)
- 21～24日 パンフェーン村でGPSの測位(宅地・村境)

**【4月】**

- 4～7日 パンフェーン村でGPS測位(森林境)
- 25～27日 パンフェーン村でGPS測位(森林境)

**【5月】**

- 30日～6月1日 ノンキョー村でGPS測位

**【6月】**

- 11～13日 パンフェーン村でGPS測位

- 18 日 ノンキョー村で GPS の測位と村長への聞き取り
- 20 日 サンパカー村小学校で Google Earth と MAP SOURCE の使い方についての講習会を実施
- 20 日 ノンパサン村で村長に聞き取り

#### 【7月】

- 7 日 パンフェーン村で聞き取り (生物情報他)
- 17, 18 日 ノンキョー村で村の諸情報の収集
- 21 日 河川名の確認のためにパトゥン村を訪問

#### 【8月】

(主にパトゥン村とノンキョー村のデータの編集。雨季最盛で現場での活動は困難)

#### 【9月】

- 28 日 パトゥン村で“村の百科事典”の完成式

#### 【10月】

- 20 日 “村の百科事典”の内容を確認するためノンキョー村へ
- 24, 25 日 パンフェーン村で GPS の測位
- 28 日 パンフェーン村で GPS の測位
- 31 日 パンフェーン村の村長が事務所を訪問。“村の百科事典”について相談

### ◆活動の成果

活動を終了できた村の数としては予定の 4~5 村に及ばなかったが、4 村で活動を行い、内容的には非常に大きな成果を得ることができた。以下の「活動村の一覧」は、助成期間において活動を行った 4 村に関するものである。いずれもファーン川流域から出て、チャオプラヤー川流域 (①②④) とメコン川流域 (③) での実例を得ることができた。

なかでも③のノンキョー村は少数民族ラフを主たる構成員とする村であり、情報の多くをタイ語ばかりでなくラフ語でも表記してある。タイにおいて、村落の歴史と現況に関する少数民族言語を用いた冊子の作成は、Link スタッフの管見における限りこれが最初である。ラフ語のソフトを導入し、スタッフの研修を行いながら、少数民族の村誌の嚆矢とすることができた。

また、地図の作成は、今後の手法の普及を考えて、すべて手作業による方法を確立してきた。しかしパトゥン村での活動以降、近年の地方農村に及ぶコンピューターの普及に鑑み、フリーソフトを使った作図の方法を研究し、ノンキョー村での活動においては全作業をパソコン上で作図することに成功した。本報告書を作成している 12 月現在では、そのマニュアルも作成中である。

さらにパンフェーン村は、大規模村の多いチェンマイ県内でも屈指の面積を有する村であり、GPS の測位およびデータ整理は困難を極めたが、こういったケースへの対応のノウハウも蓄積することができた。

なお、ノンキョー村とパンフェーン村は助成期間中に活動を終えることは出来なかったが、本年 12 月中をもって“完成式”を迎える運びとなっている。

“村の百科事典”はこれを得た村人が、本冊子を応用して森林の保全計画を立てたり森林局と共同作業を行い、または地域の学校が子どもたちに対する環境教育に使用して初めて効果があるものであり、現時点においてその成果が如実に見えている訳ではないが、過去に活動を行った村ではたいへん活用されており、その事例は“2010 年度 事業報告書”に示してある。

また、こうした Link の活動は徐々に注目されてきており、本年 11 月 6 日(日)には、タイのテレビ局・チャンネル 9 の“チャン・ラック・ムアン・タイ (I Love Thailand)”で約 1 時間にわたって紹介されるに至っていることも付け加えておきたい。この番組は「森と水と人をつなぐ会」で検索すると、Link のホームページから見る事ができる。

#### 〔2010 年度(後期) 活動村の一覧〕

- ① チェンマイ県サンカンペン郡オンタイ区ペ村 (115 戸、人口 439 人)  
〔活動終了：2011 年 1 月 28 日〕
- ② チェンマイ県サンカンペン郡オンタイ区パトゥン村 (215 戸、人口 760 人)  
〔活動終了：2011 年 9 月 28 日〕
- ③ チェンライ県ムアン郡メコン区ノンキョー村 (202 戸、人口 842 人)  
〔活動終了：2011 年 12 月中(予定)〕
- ④ チェンマイ県ドーイサケット郡パーミヤン区パンフェーン村 (220 戸、人口 703 人)  
〔活動終了：2011 年 12 月中(予定)〕

最後に、申請書における長期的な展望展開に書いた、「資源消費国家である日本でも環境保全・持続的な社会に関する理解」を得るための講演については、合計 40 ヶ所で 1,358 人の聴講者を得ることができた。

#### 〔2010 年度(後期) 講演先の一覧〕

◆2010 年 10 月 17 日～11 月 10 日

<関西>①神戸 YMCA 三宮会館(18)、②追手門学院大学(20)、③④京都精華大学(20)、⑤神戸大学(21)、  
⑥追手門学院大学(22)、⑦マツトミー〔大阪府茨木市〕(22)、⑧北タイのハンディクラフト展示市(23)

<関東>⑨東京国際大学(27)、⑩明治学院大学(28)、⑪関東学院大学(30)、【11 月】⑫WE21 ジャパン・  
ざま〔東京都町田市〕(1)、⑬薬師院〔神奈川県川崎市〕(3)、⑭善了寺〔神奈川県横浜市〕(5)、  
⑮駒澤大学(6)、⑯日タイ草の根教育交流実行委員会〔東京都立川市〕(7)

参加人数：①7 人、②80 人、③24 人、④9 人、⑤20 人、⑥50 人、⑦13 人、⑧8 人、⑨61 人、⑩20 人、  
⑪28 人、⑫9 人、⑬38 人、⑭16 人、⑮10 人、⑯7 人 【総計 400 人】

◆2011 年 5 月 26 日～6 月 26 日

<関西>①北タイのハンディクラフト展示市〔兵庫県尼崎市〕(29)、②③神戸夙川学院大学(30)、④マイ  
チケット〔兵庫県尼崎市〕(31)、【6月】⑤⑥追手門学院大学(1)、⑦神戸大学(2)、⑧北タイの  
ハンディクラフト展示市〔京都府宇治市〕(3)、⑨大阪府立大学(6)

<関東>⑩早稲田大学(7)、⑪お茶の水女子大学(10)、⑫学習院高等科(14)、⑬磯子工業高校(14)、⑭武  
蔵大学(15)、⑮北海道大学(21)、⑯北星学園大学(23)、⑰アースカパー〔北海道札幌市〕(23)

参加人数：①7人、②20人、③1人、④6人、⑤100人、⑥20人、⑦20人、⑧20人、⑨65人、⑩100  
人、⑪75人、⑫15人、⑬40人、⑭25人、⑮80人、⑯90人、⑰7人 【総計 691人】

◆2011 年 10 月 6 日～10 月 31 日

<関東>①世界森林アクションサミット(8)、②早稲田大学(12)、③聖心女子大学(12)、④駒澤大学(28)、  
⑤お茶の水女子大学(28)

参加人数：①81人、②77人、③28人、④49人、⑤13人 【総計 248人】

◆2010 年 11 月～2011 年 10 月

<チェンマイでの講演>① 関東学院大学(3/20)、② アジアの女性と子どもたちの会(8/19)

参加人数：①13人、②6人 【総計 19人】

\* ( )内の数字は実施した日にち

◆今後の課題

本活動は次第に業績も増え、北タイの森林保全や村落開発の関係者の間でも少しずつ知られるようになり、以前に比べれば現場も含めて活動のし易さも格段に良くなった。しかし、住民組織や NGO、関連行政機関などへの普及を目指すには、まだあまりに事例が少ない。

これらの問題を解決するために、以下のような課題に取り組んでいく必要がある。

- ① 予算確保によってスタッフの増加を図り、より多くの実績を上げる。
- ② 作業の効率化。これまでは“村の百科事典”の内容や情報収集の手法について模索を続けてきたが、様々な条件下にある 10 前後の村での活動を通して、大枠は固まってきたと言える。これらを実際に普及できるような形にするには、より簡易で短時間に行えるようにする工夫が求められている。
- ③ “村の百科事典”をより有効に活用するための方法を問われることが増えている。これに答えるため、具体的な実用例などを含めたマニュアルの作成が求められている。
- ④ タイ国内での認知を広め、活動を普及させるため、さらなる広報力の強化が必要である。
- ⑤ 刻々と変化する政策や法律、村のくらしといった現状に対応し、また作図などに関する技術の習得を図るためにも、スタッフが験算を積む機会を得られるようにする必要がある。